

教育インターネット・サミット - 国際交流から国際連携へ -

名古屋市立西陵商業高等学校
影戸 誠

キーワード 国際交流, インターネット, プレゼンテーション, 活動支援, 英語教育モデル

1. ねらい

昨今, インターネットの普及により学校現場での活用が盛んになりつつあるが, そのインターネット活用により, 世界の人々と地理的・時間的制約を超えて交流することが可能となってきている。この魅力的な活用ツールは, 学校教育においても教室での教科書や手持ちの資料に基づく授業に比べて, より具体的な生徒主体の授業ができる可能性を秘めている。

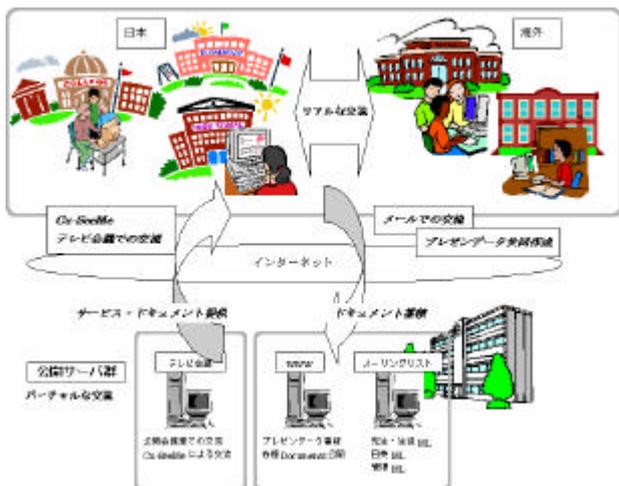


図1 国際交流イメージ

しかし, それでは誰でもすぐにインターネットを活用した授業や教育実践が可能か, という別問題であり, そこには多くの困難や必ず通らなければならない道程がある。実際に学校でのインターネット活用はまだ始まったばかりであり, ましてや授業の中で国際交流活動を行っている学校は限られている。

以上のような状況を踏まえ, 本プロジェクトでは, これから国際交流を始めようとする学校現場の教師や生徒たちに興味を持たせるのと同時に, 協働実践を通して教師や生徒達に実際に海外の現実の姿に触れさせ, そこから国際交流を始められるよう国際交流の輪を広げられる仕組みを創ることを目的とした。イベント開催や事前事後の交流プロセスなども公開していき, これから国際交流の研究会や発表会を開催しようとする方々への指針となるべく, 次世紀に相応しい国際交流の姿を模索した。

2. 取り組みの内容

2.1 ワールドユースミーティング

名古屋で行ったこのイベントは世界5カ国の高校生が集い, 「ミスコンセプション (誤解と理解)」をテーマに, ネット上で交流準備を進めた。日本・各国のユニットを分け, WEB・メールでの情報共有, メーリングリストの運用, 共同プレゼン作成, 発表と活動を行った。活動の内容は随時 WEB にアップされ世界へ発信すると同時に, 交流を深める重要なツールとなった。Web ページは, 最初のページは英語版と日本語版を掲載し, 2ページ目からはそれぞれ英語版と日本語版に分けた。

2.2 アジア高校生インターネット交流プロジェクト

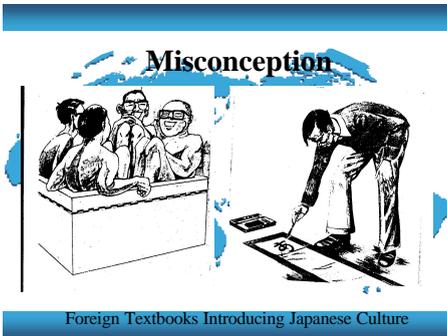
リアルな交流として, 日本の高校・大学・台湾の高校・大学生との交流プロジェクトを行った。相互のプレゼンテーション, パーティーなどは, 自分たちの手で行うことの連帯感・充実感などを実感でき, 「コミュニケーションとは・・・」を十分体感できたプロジェクトとして終了することができた。

2.3 国際交流マニュアルの作成

上記の活動を通じてプレゼンデータ等の事例やモデル的なドキュメントの蓄積を行った。あわせて発表者を初め実際に携わった関係者から各々の記録を集め, 蓄積された共有すべきノウハウ等を2冊のガイドブックとして明文化した。

3. バーチャルとリアルの融合

3.1 活動支援環境



Foreign Textbooks Introducing Japanese Culture

図2 WorldYouthMeeting2000
プレゼン資料

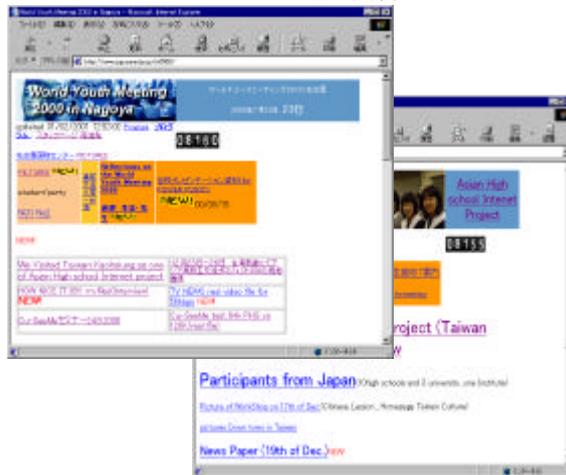


図3 公開用 WEB ページ

E スクエア・プロジェクト成果発表会

国際交流に取り組む際、我々は【ネット情報コミュニケーション】 【直接会いコラボレーションを行う】 【理解を深めさらに交流】という連続した活動を行うことを主眼としてきた。つまり重要なことは【バーチャル】 【リアル】 【バーチャル】と継続的に、また螺旋的に発展させることである。それを実現したシステム、活動を支援するネットワーク環境として、今回 WEB サーバとメーリングリスト、テレビ会議サーバを公開した。

3.2 国際交流用公開 WEB サーバ

まず、国際交流用のサーバを <http://www.japanet.gr.jp/w2000/> に設置し、作成されたいくつものプレゼンテーションファイルを一つのサーバに入れ、国際的に教師、生徒が利用できるサイトを構築した。

- ・画像を多用しお互いが親密感を持つ。
- ・基本的な情報をアップし状況が日本、海外から把握できるようにする。
- ・プレゼンテーションデータ、アンケートモデル（日本語・英語）を設置しそれぞれの学校の活動をサポートする。
- ・プレゼンデータなどコラボレーションによってできあがった成果を公表し、国際交流に興味のある学校に対して参考資料として提供する。

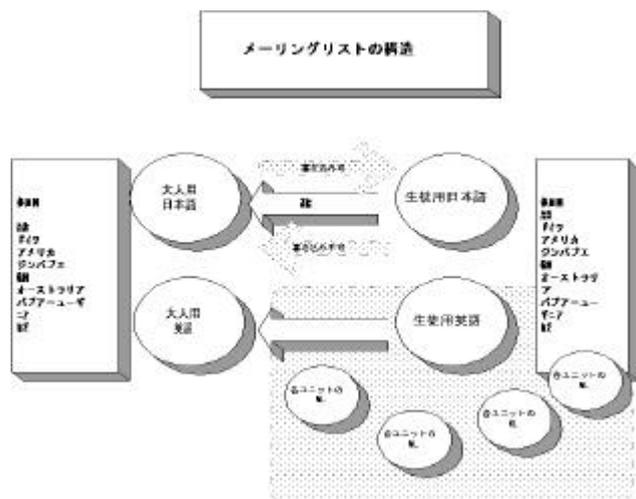


図4 メーリングリストの構造

3.3 メーリングリスト

次に、メーリングリストの運用である。これを効果的に、かつ多様に構築することが活動の進捗をスムーズにする。

・日本語教員サポート用メーリングリスト

日本の先生だけでなく大学、サポート企業の方々を入れたメーリングリスト。主に各校での動きの報告、パワーポイントの作成打ち合わせ、当日のプログラムなどを中心に話しあった。

・英語版教員サポート用メーリングリスト

日本語教員サポート用メーリングリストのメンバーに海外の先生を含めた英語版メーリングリスト。主に日本での滞在日程、経費負担、プログラム、発表原稿の打ち合わせなどに使われた。

・生徒用メーリングリスト

英語版、日本語版を作成しそれらを全て教員サポートのメーリングリストに自動転送させた。

・メーリングリストのグループ分け

ワールドユースでは、プレゼンを各ユニットで行った。しがって生徒用のメーリングリストも台湾グループ、ドイツグループなど発表グループごとのメーリングリストを作成し論議しやすい仕組みとした。

主だった ML は西陵商業高等学校のサーバで行ったが、台湾グループの ML は福井商業高等学校、韓国ユニットの ML は四日市西高等学校で行うなど、負担の分散化と参加教員の ML 管理スキルアップを考えた。

3.4 テレビ会議用公開サーバ リフレクタ

最後にテレビ会議システムについては、企業の協力を得て公開サーバを設置するとともに、スキルアップ研修を継続的に行った。バーチャルな交流では、最大の効果を期待できるテレビ会議システムではあるが、公開サーバを利用することで、気軽にスムーズな交流環境を実現できたことは、国際交流においては大きな成果であろう。

4. まとめ - 学校間連携・国際連携 -

今回、イベントや活動を通して、国内的にも国際的にも中学校・高校・大学との連携を実現できたことは、大きな収穫であった。今回の活動を通じて得られたノウハウを含む有形無形の資産は、今後の国際交流の活動に具体的な指針として有益なものになるだろう。今後も活動を継続・発展させていくためには、国内においては学校連携をより拡大し学校を中心とした教育関連支援組織の生成、国際的にはそれを基とした国際連携組織への発展が重要な課題になるだろう。また、具体的な「インターネット・コミュニケーション・ツールとしての英語」という観点からの英語教育モデル再構築も視野に入れて、前掲の活動支援環境システムと相乗させて、より多くの学校が活動に参入しやすいモデルと支援環境を共有できることが今後の活動を発展させるもう一つの課題となるのではないだろうか。